

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体名:	特定非営利活動法人那須高原自然学校
実施時期:	2021年 7月～2022年 2月
事業対象地域:	栃木県
事業対象者:	栃木県内の子ども（未就学児～高校生）、大学生、社会人

Version 3.2

日付: 2022年3月7日

I. 事業概要

事業実施概要	<ul style="list-style-type: none">●県内の子どもたちに、新型コロナウイルス感染対策をとりながら、日帰り型、宿泊型の自然体験活動の機会を届けるために、自然体験プログラムを企画立案及び実施した。●経済的に困窮している家庭の子どもたちも自然体験活動に参加できるように、子ども支援団体とも連携し仕組みをつくり、森の中で活動するプログラムを企画立案及び実施した。●県内自然体験活動団体に声掛けを行い、ろまんちっく村及びうつのみや文化の森にて屋外の自然体験イベントを開催した。●構成4団体のボランティアや自然体験活動従事者等を対象とした研修や地域意見交換会を実施した。 ※新型コロナウイルス感染状況により、随時計画を変更しながら事業を実施した。
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>【トチギ環境未来基地】</p> <p>コロナ禍で外遊びや自然体験の機会を失っている子どもたちに自然体験を届けるという事業目標については、各団体ともベストをつくし、達成できたことが良かった。また当団体にとっても県内の他の団体と協力しそれを推進できたことは良かった。運営委員会、合同研修、合同イベントを通じて、団体の枠を超えた共通の問題意識や、共通の取り組みを検討できたことも貴重な時間であった。コロナウイルスの影響がこれほどに長期化するなかで、学校行事が中止になったり、外出控えが続いたり、黙食が日常化したり、グループワークができなかったりと、子どもたちが通常の生育過程のなかで自然に経験することができない子どもたちが増えている。そうした状況の中、自然の中で子どもたちが様々な経験をつみ、子ども同士が協力したり、一緒に遊んだりすることができる時間は大変重要だと実感した。今回の事業で小規模であってもそうした機会を途切れさせないでできたことは大きな成果であると考えている。また、子ども食堂など子どもたちが集まる場所と自然体験の連携が進んだことも新しく、未来につながる成果だと感じている。</p> <p>【サンバの里自然学校】</p> <p>当初計画していた幼児向け施設自然体験はコロナ禍により参加施設が伸び悩んだため、12月からは募集型の子供向け自然体験プログラムを中心に実施した。また、ネットワークの形成により、参加者がネットワーク内の団体を行き来し様々な体験活動に参加する様子が見られた。特にキッズネイチャーフェスや森のようちえん体験会がきっかけとなっていた。このネットワークにより参加者（子ども）にとって多様な出会いと自然体験の機会を提供できたことは価値が高い。このネットワークは、参加者のみならず実施団体にとっても意義のある活動であったと感じた。</p> <p>【とちぎYMCA】</p> <p>現在のコロナ禍という不自由さの中で、子どもたちへ自然体験を届けるという事業目標を掲げ達成できるように尽くした。当初の予定では宿泊プログラム・日帰りプログラムだったが大幅な変更をせざるを得ない状況の中で宿泊プログラムを日帰りプログラムやクラフト活動などに切り替え、「今」の状況に合わせて活動を展開することが出来た。活動の中で自由に遊べない状況、自然体験の経験の少なさを子どもたちの様子や申込の状況から感じた。活動の中で“リーダー”と呼ばれる高校生・大学生ボランティアが子どもたちに関わることで表情が明るくなり、自然の中で体を使い思いっきり遊ぶ楽しさ、人と繋がる喜び・嬉しさなどを感じてもらえたようだった。また、各自然体験団体と交わることで活動の幅の拡がりや連携など今後に繋がるネットワークを築くことが出来た。</p> <p>【那須高原自然学校】</p> <p>子どもたちの外での遊びが制限されたり、手洗い消毒などストレスのかかる生活様式の中で、キャンプに対するニーズは高まっていると感じている。参加者の様子を見ても森の中でのびのびと活動している印象が強く、外で遊ばせたいという意識がある親御さんも多い。普段できないキャンプという体験の中で様々なことを経験して、新型コロナをはじめとする逆境や困難に対しても乗り越えていけるような次世代の子どもたちの育成に寄与することができた。また、今回県内の4団体でコンソーシアムを結成し新型コロナウイルスによる自然体験活動への影響について向き合い、各団体で持っているノウハウを共有し事業実施ができたことは大きな成果である。</p> <p>【とちぎ自然体験コンソーシアム】</p> <p>今年度から組織しているコンソーシアムとしては、県内の同業者のネットワークが出来たことが大きな一歩となった。お互いで情報共有して、またイベントなどで連携して発信することで、1団体で出来ないことも可能になった。またコンソーシアムがとちぎ子ども自然体験活動ネットワークに発展し、受け皿となるポータルサイトが完成したことは今後の栃木県内の自然体験活動の推進に大きな成果であると考えている。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	県内における自然体験活動の機会が維持され、多くの子どもたちが自然体験活動に参加できる。	・事業数 ・参加者数	<p>（サシバの里自然学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼児対象プログラム 13回 325名 ●親子向けプログラム 1回 100名 ●子ども対象プログラム 0回 0名 <p>（トチギ環境未来基地）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日帰り自然体験 14回 160名 ●1泊2日キャンプ 2回 32名 <p>（とちぎYMCA）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日帰りキャンプ 1回 20名 ●宿泊キャンプ 2回 40名 ●出張クラフト 0回 0名 <p>（那須高原自然学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿泊キャンプ 5回 60名 ●日帰りキャンプ 0回 0名 ●出張クラフト 0回 0名 	<p>（サシバの里自然学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幼児対象プログラム 9回実施（達成率69%） 205名参加（達成率63%） ●親子向けプログラム 1回実施（達成率100%） 160名参加（達成率160%） ●子ども対象プログラム 4回実施（達成率-%） 55名参加（達成率-%） <p>（トチギ環境未来基地）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日帰り自然体験 16回実施（達成率114%） 269名参加（達成率168%） ●1泊2日キャンプ 2回実施（達成率100%） 48名参加（達成率150%） <p>（とちぎYMCA）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日帰りキャンプ 2回実施（達成200%） 22名参加（達成110%） ●宿泊キャンプ 0回実施（達成率-%） 0名（達成率-%） ●出張クラフト 2回実施（達成率-%） 11名参加（達成率-%） <p>（那須高原自然学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿泊キャンプ 4回実施（達成率80%） 27名参加（達成率45%） ●日帰りキャンプ 1回実施（達成率-%） 13名参加（達成率-%） ●出張クラフト 3回実施（達成率-%） 93名参加（達成率-%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・4団体が各々でプログラムを実施し、子どもたちに対しての自然体験の機会を創出できた。 ・日帰り型、宿泊型、出張型など様々な形態の自然体験活動を検討し実施できたことは、自然体験活動の幅の広さを証明することとなったと考える。 ・新型コロナウイルス感染症により中止や延期になった事業も多かったが、関係者と実施に向けて調整をして目標値を超えることは人語の事業実施の際にも活かされると考える。 ・計画していた事業が中止になったこともあったが、計画していなかった新たな事業を展開できたことは自然体験活動事業者の対応力の高さも要因の一つであると考えます。
生活困窮者	学習機会の不足/格差	・生活困窮家庭の子どもたちも自然体験活動に参加できる仕組みができる。	・事業数 ・参加者数	<ul style="list-style-type: none"> ●日帰り自然体験 14回 160名 ●1泊2日キャンプ 2回 32名 	<ul style="list-style-type: none"> ●日帰り自然体験 16回実施（達成率114%） 269名参加（達成率168%） ●1泊2日キャンプ 2回実施（達成率100%） 48名参加（達成率150%） ●連携した子ども支援団体 2団体 キッズハウス・いろどり12回 益子なないろ子ども食堂4回 	<ul style="list-style-type: none"> ・トチギ環境未来基地を中心に子ども食堂など子どもが集まる場所や団体との連携が進み、生活困窮家庭の受け入れを実施することができた。 ・子ども支援団体、保護者ともに好評をいただいたことは大きな成果であると考えます。 ・研修会でも子どもとの関わり方や連携について現状を理解することができ、今後相互で連携できる体制はできたと考える。
中間支援者	連携の不足	・コンソーシアム構成4団体が連携することで今まで参加していた参加者ではない新しい参加者層と繋がる。	・満足度 ・達成度	新規参加者の開拓	<ul style="list-style-type: none"> ●「これまでにこちらの団体の自然体験プログラムに参加されたことはありますか？」という問いに対して、「はじめて参加した」と回答 21件/77件中 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した参加者の内78名からアンケートを回収した結果より、約27%の子どもが初めて自然体験活動に参加したという回答であった。これは、今回の事業により参加費を押さえることにより参加しやすい環境を整えることができたからだと思われる。 ・約73%の子どもは以前参加したことがあるリピーターであり、その中には数名コンソーシアム構成団体の中の複数団体のプログラムに参加している子もいるため、連携することによる新たな参加につながったと考えられる。 ・コンソーシアムで実施したイベント「キッズネイチャーフェス」や「森のようちえん体験会」では、今まで団体を知らなかった方にも活動を知ってもらう機会となった。今後、プログラム参加などに繋がっていくと考えている。

中間支援者	連携の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムメンバー同士が個々ではできない自然体験活動の社会的意義を社会や企業など広域に発信できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度 ・達成度 	質問に対し平均4以上を目指す(5段階評価)	<p>「プログラム後のお子様の生活・態度等に変化がありましたか?」という問いに対して、</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きく変わった (5) 10件 変わった (4) 30件 変わらない (3) 34件 全く変わらない (0) 0件 分からない (1) 3件 <p>平均3.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験や気づきによる子どもの成長は、自然体験活動の目的や社会的意義の1つである。アンケートの結果からも、約50%の親御さんがプロ後に子どもの変化があったと回答している。これは、自然体験活動での非日常が日常の取り組みに活かされていることが証明された。 ・約50%は変わらなかった、またはわからないと回答している。自然体験活動に参加した1日又は数日間では大きな変化は見られないという結果だったが、子どもたちが体験したことは少なからず経験値として身につけており、将来何かの機会にこの経験が活きる時が来ると願っている。 ・教育的観点の団体と社会福祉的観点の団体が混在するコンソーシアムだからこそ、子どもや自然という共通点の中で様々な立場の方々への自然体験の必要性や可能性を発信できている。今後はメディアを含めて、より多くの方に伝えるように発信する必要がある。
子ども・学生	相談先の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者にとっては、自然体験活動が自分の居場所や安心できる場所となり、関わる人や困っている人を支える受け皿となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度 ・達成度 	質問に対し平均4以上を目指す(5段階評価)	<p>「お子様はプログラムに参加されたいかがでしたか? (満足度)」という問いに対して、</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常に楽しかった (5) 66件 楽しかった (4) 10件 普通 (3) 0件 楽しくなかった (2) 1件 非常に楽しくなかった (1) 0件 <p>平均4.8</p> <p>「次に同様のプログラムがある時は参加したいですか? (達成度)」という問いに対して、</p> <ul style="list-style-type: none"> 必ず参加したい (5) 43件 できるだけ参加したい (4) 32件 どちらかと言えば参加したい (3) 0件 参加したくない (2) 0件 絶対参加したくない (1) 2件 <p>平均4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートより満足度、達成度共に目標値である平均4を上回った。これは、子どもたちの自然体験活動へのやりがいや興味関心につながっていることが言える。現状、居場所となっている事例は少ないが、参加者の中にはリピーターも多く、プログラムの参加を楽しみにしている子どもが多いということが分かった。 ・楽しくなかった、絶対参加したくないという意見もあり、子どもの中には辛い経験や思っていたものと違うなどの印象があったと考えられる。 ・自然体験活動を家庭や学校ではない第3の居場所として捉えている子がいたり、親御さんを支える活動となれるように引き続き受け入れを行っていく必要があると考える。
中間支援者	連携の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金内定団体同士も連携し、お互いで情報共有することにより、自然体験活動の参加者の幅を広げる。また助成金内定団体同士のセーフティネットとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業数 ・参加者数 		<ul style="list-style-type: none"> ●出張クラフト 2回実施 66名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金ない団体の1つである「フードバンクうつのみや」の紹介により、宇都宮市の民間の学童への出張クラフトを実施した。この助成金がなかったら実現しなかったプログラムであり、実績となるとともに活動の幅の広がりやニーズを感じた。 ・コンソーシアム内定団体同士の情報交換や、団体を紹介するなど少しずつ連携が出来てきているため、今後もこの関係を続け、お互いで支え合いメリットのある関係を築いていきたい。 ・事務局である「とちぎコミュニティ基金」を中心に今後もつなげるための仕組み作りにも取り組んでおり、この助成金での出会いや繋がりが持続可能となるように今後も連携していく。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	●自然体験活動に参加する子どもの数：感染拡大前に実施していた規模の参加者数を回復する。
考察等	3密を避ける、屋外での活動制限、イベントなどの中止による体験の不足により、自然体験活動へのニーズは高まっていると感じる。実際に、参加申し込みや問い合わせも増加傾向にあり、少しずつ参加者数も回復してきているため、1年後は新型コロナ前の規模まで回復する兆しは見えていていると感じる。しかし、自然体験活動は子ども同士の距離やスタッフとの関係性により、効果が増大する取り組みでありそれには参加者同士密になる場面が多く存在する。例えば、野外炊飯で火起こしや調理をする際には、みんなで1つの火をつけなければご飯を調理することができないため、自然と子どもたち同士で協力が生まれる。新型コロナウイルス感染対策を施した自然体験活動のやり方を模索しているが、今後も感染状況により活動が大きく左右されることは懸念点である。

事業実施以降に目標とする状況	●子どもたちのリフレッシュ：普段の生活の中でマスク着用や消毒の徹底等の不自由な生活によるストレスを感じている子どもたちに対し、自然の中で活動し、屋外の3密を避けた環境で心身ともにリフレッシュする機会を維持する
考察等	各団体で事業を継続することで、少なからず子どもたちがリフレッシュする機会を提供することはできる。とちぎYMCAの活動後の評価の中で「今回、参加した子どもたちが普段住んでいる宇都宮では体験することが難しい多くの雪に囲まれた自然の中での活動となった。周りが自然に囲まれていたため様々な事柄に縛られることなく、コロナ禍という厳しい状況の中で心のリフレッシュに繋がっていった。」とあり、目標達成に向かっていくことが分かる。しかし、自然体験活動の中で感染終息後に新型コロナ対策（マスク着用や接触機会の自粛など）をどこまで引き続き実施するかは今後検討が必要だと感じ、場合によっては参加者がストレスを感じる対策を継続しなければいけない可能性もある。

事業実施以降に目標とする状況	●新型コロナウイルスの影響を大きく受けている家庭に対しても、自然体験活動に参加しやすい仕組みが整う
考察等	新型コロナの家庭への影響は1年で回復することは難しいが、生活困窮家庭への支援は続けていきた。トチギ環境未来基地の活動では、子ども支援団体との連携により延べ317名の子どもたちが活動に参加し、そのうち、経済的に困難な家庭の子どもたちの参加が60%を越え本事業のねらう参加者層に機会をつくることができた。その子どもたちに助成金を活用し自然体験の機会を提供できたことは大きな成果であり、この連携を広めていき協力者や関係者を増やすことは、今後の受け入れ体制を整える意味でも重要である。また、その中で行政の支援や補助金等の助けも必要になってくると考える。

V. 活動

活動	進捗	概要
幼児対象プログラム (サシバの里自然学校)	ほぼ計画通り	9回205名の参加があった。主に生きものや里山をテーマとした活動であり、生きものや自然への見方が変わった子どもが多かった。「普段あまり生きものに興味がなかった子ども達が、参加回数を重ねる度に積極的に生き物を捕まえたり触ったりする姿が見られるようになった。」「生き物探しが楽しかったようです。森や田んぼでも探しましたが、池の中に仕掛けてあった網を引き上げた時に、沢山のメダカや水生生物が入っていたのに興奮した様子でした。また、脱穀体験を楽しみました。羽釜で炊いたご飯を、青空の下でお腹いっぱい食べたのも嬉しかったようで、いつもより食べられる子がいました。」等の意見があった。
子ども対象プログラム (サシバの里自然学校)	計画通り	4回55名の参加があった。新型コロナウイルス感染拡大により団体利用がキャンセルとなってしまった関係で、募集型の子ども向けプログラムを企画した。子どもたちは自然の中で普段できない体験を経験した。「氷が張った池？川？の上のぼって割ってその中に落ちた(もちろん子供たちは楽しんでます)。親が見ていたら「やめなさい」と言ってしまうので自由にやりたいようにやらせてあげることが出来て良かった。」「竹の階段を頑張って作って楽しかった、初めての友達とも仲良く話せた、笑顔がいいね！とスタッフの方に褒めてもらって嬉しかった、と話していました。」等の意見があった。
親子向けプログラム (サシバの里自然学校)	計画通り	1回160名の参加があった。森のようちえん体験会と題して、うつのみや文化の森にて未就学児と保護者を対象とした親子向けプログラムを実施した。芝生の滑り台、生き物さがし、葉っぱプール、ストーンペイント等の体験や参加者全員での演奏会など、多感な幼少期の原体験として感性を養う多くの体験の機会を提供した。また、県内の森のようちえんに取り組んでいる団体と連携しイベントを実施することができた。
日帰り自然体験 (トチギ県境未来基地)	計画通り	16回269名の参加があった。市貝町や茂木町の管理している竹林にて子どもたちが自由に活動を選択し、ノビノビと活動する機会を提供した。コロナ禍の影響を受けやすい子どもたちを支えるキッズハウス・いろいろ、益子なないろこども食堂と連携し、プログラムを実施することができた。主なプログラムは宝さがし、虫取り、森の遊具遊び、森の探検、枝豆の収穫、木工クラフト、森遊び、さつまいもほり、やきいも、アスレチック、リースづくり、もちつき、干し芋づくり、竹で門松づくり、竹の秘密基地づくり、バームクーヘン、竹の車づくり。「たき火をしたことがなかったので、火を燃やすのに熱中していました」「竹のお家を改良するために、家に帰ってきてからもアイデアを出していました」等の意見があった。保護者の方からも感謝の声を多数いただきました。
1泊2日キャンプ (トチギ県境未来基地)	計画通り	2回48名の参加があった。子ども支援団体「キッズハウス・いろいろ」と連携し週末に1泊2日のキャンプ体験を行った。川遊び、宝さがし、虫取り、キャンプファイアー等子どもたちにとっては夏の思い出や忘れられない経験になった。また、里山や自然で遊ぶ機会を求めている子どもたちが多くいることを実感した。「虫とり大会で、娘がお友達と小さいカエルを30匹つかまえたと自慢していました」「野外炊飯で料理をしたからだとおもいますが、食材の切り方について聞いてきました」「学校外の新しい友達できて、自信がついたように感じます」等の意見があった。料理、掃除など子ども同士が手伝いあう姿も見ることができ、宿泊を伴うプログラムの意義や効果も実感することができた。
日帰りキャンプ (とちぎYMCA)	計画通り	2回22名の参加があった。10月に鬼怒川でのラフティング体験、1月に那須での雪遊び体験を実施した。ラフティングも雪遊びも大自然を体で感じるができるプログラムであり、参加者からも「初めてやったけどジャンプ出来たよ。」「(ラフティングに対して)絶対、またやりたい。」「リーダーと一緒にまくらを作ったのが楽しかった。」「ソリ遊びや雪玉を作って雪合戦が楽しかった。」という意見もあり、参加者同士の遊び、リーダーとの遊びを楽しんでいた。
宿泊キャンプ (とちぎYMCA)	中止	9月の秋キャンプ、2月の雪遊びキャンプは新型コロナウイルス感染状況により、とちぎYMCAのガイドラインに基づき中止となった。計画では宿泊を予定していたプログラムは、一部日帰りに変更してプログラムを実施した。
出張クラフト (とちぎYMCA)	ほぼ計画通り	2回11名の参加であった。とちぎYMCAが取り組んでいる学童事業にて、学童に登録している子どもを対象としたクラフト体験を実施した。屋外で木を切り、バーナーで炙って水とタオルで磨き世界に一つだけの自分の名札を作った。子どもたちからは「一生大事にする」「毎日、着けていく」などの感想が聞こえてきた。学童の先生からも「普段外での体験が少ないのでこういう機会はとてもありがたい」という意見を頂いた。

宿泊キャンプ (那須高原自然学校)	ほぼ計画通り	4回27名の参加があった。8月の夏キャンプは緊急事態宣言発令により中止。9月の海キャンプはまん延防止等重点措置のため県跨ぎをしない那須の森キャンプに変更した。12月の冬キャンプ、1月と2月のスキーキャンプは計画通り実施した。野外炊飯やクラフト体験、ドラム缶風呂、テント泊、スキー体験等那須でできる自然体験を満喫した。「1人のお泊まりは心配だったみたいで、申し込み前は行かない!と言っていました。送って来ていただいたしおりに見ながら、参加するとすごくパワーアップすること、スキーが上手になること、一人でできるようになること、など説明しましたら、行くっ!とやる気満々になりました。しおりには、スケジュールと共に活動写真が載っていて、これ何してるところ?など興味深くみていました。そして、達成できる目標も示されていて、活動のイメージがはっきりしたようで俄然やる気になっていました。子どもの心をつかむ丁寧な事前準備本当にありがとうございました。」という意見があった。
日帰りキャンプ (那須高原自然学校)	ほぼ計画通り	1回13名の参加があった。宿泊キャンプが回数が減ってしまったため、日帰りのキャンプを企画した。那須の農家さんにて農業体験を経験した。普段食べている野菜のできる所を見ることで食べ物に対する見方や考えが変わった子もいた。「自分で植えた苗が大きく成長していたこと。お米の乾燥室をみたこと。収穫された稲が干されている様子を見たこと。」「玉ねぎの苗がとても小さかったこと。」「稲を刈る農業機械に興味あり。」等の意見があった。
出張クラフト (那須高原自然学校)	ほぼ計画通り	3回95名の参加があった。フードバンクうつのみやさんに紹介していただき、宇都宮へ出張してクラフト体験を実施した。木の枝のカトラリー作り、葉っぱスタンプ、積木クラフトを実施し、子どもたちの想像力や創造力に驚かされる場面があった。また、1件は那須塩原市の小学校の特別支援学級の子どもたちに対してクラフト体験を実施した。全ての子どもたちに自然の恵みを届けるというビジョンに向かい、サポートが必要な子たちへ自然体験を提供することができた。
野外イベント	計画通り	1回176名の参加があった。宇都宮市のろまんちっく村にて「キッズネイチャーフェス」と題して、栃木県内の自然体験活動団体が集まって自然体験の機会を提供した。生き物さがしや竹のドーム作り、ススキミミズク、弓矢体験などの自然体験の他にキャンプソングをみんなで歌うイベントも開催した。当日は天気も良く、多くの子どもや保護者に方が会場を訪れた。次年度以降も、県内の団体が集まる機会を創出し継続して自然体験活動の必要性お発信していきたい。
オンラインセミナー	計画通り	1回10名の参加があった。コンソーシアム4団体のスタッフやボランティアを対象とした関係者のレベルやスキルを高めるセミナーを開催した。新型コロナウイルス対策としてオンラインとオフラインのハイブリッド開催とした。「子ども支援団体からみる、自然体験活動への期待」と題して、子ども支援団体の実情や課題、連携のアイデアについてお話を伺った。講師はキッズハウス・いろどりの荻野氏をお招きした。
意見交換会	計画通り	1回34名の参加があった。栃木県内の自然体験活動団体の横の繋がりを強化するために、オンラインの意見交換会を実施した。意見交換会のテーマは「今後の連携や事業、プログラムの可能性」について話し合いを行った。次年度以降も自然体験活動コンソーシアムをとちぎ子ども自然体験活動ネットワークに発展させて、県内外に発信していく取り組みを行っていく。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	とちぎ自然体験活動ポータルサイトの製作 自然体験活動の機会を創出し、子どもたちの成長をさせるために4団体で連携し事業を実施してきた。その中で、キッズネイチャーフェスでは県内の7団体が集まり自然体験活動の安全性や必要性を発生出来たことは大きな成果である。また、今までこのような連携の機会がなかったが、実際にイベントを企画してみたところ、今後の継続や連携に対してのニーズや要望も多くあり県内の自然体験活動団体の横の繋がりを構築することと、県内の自然体験活動の情報を取りまとめるためのポータルサイトを製作した。県内でプログラムを探している方や問い合わせなどの窓口としても機能し、今後の発信に重要なツールとなる。また、寄付の受け皿や情報発信、情報共有の場として様々な活用方法が検討されている。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	・発達障害の子への対応 内定団体よりご質問頂いた発達障害の子の受け入れ態勢について各団体で様々であり、特に明確な指標はなかった。 今後はコンソーシアムとして精査する必要があると感じた コロナウイルスの感染拡大には波があり、その波がいつくるかわからない。通常数か月前から時間をかけプログラム準備、広報を行う自然体験活動にとって時間をかけて準備したものが中止、縮小、変更が続くと継続が厳しい。波を見ながらの短期準備、短期広報に切り替えが必要かなど引き続き検討が必要
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
フードバンクうつのみや	連携先の学童保育への出張クラフトの提供、プログラムへの食品の提供
ろまんちっく村	キッズネイチャーフェスでの会場提供、広報協力
うつのみや文化の森	森のようちえん体験会での会場提供
キッズハウス・いろどり	子ども支援団体へのプログラム提供、オンラインセミナー講師依頼、意見交換会事例発表依頼
益子ないろ子ども食堂	子ども支援団体へのプログラム提供
葛飾区立日光林間学園	キッズネイチャーフェスへの出展協力、意見交換会事例発表依頼
NAOC	キッズネイチャーフェスへの出展協力、森のようちえん体験会出展協力
林業女子会@栃木	キッズネイチャーフェスへの出展協力
あいうえお、ぬくぬく&風の子そよそよ、山のようちえん	森のようちえん体験会出展協力
トライ東	オンラインセミナー会場提供
マウントジーンズ那須	スキーキャンプ会場提供
栃木県立那須高原自然の家	スキーキャンプ会場提供、雪遊びキャンプ会場提供
ITTANゲストハウス	那須の森キャンプ、冬キャンプ及びスキーキャンプ宿泊場所提供

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,494,520	4,134,643	92.0%
	管理的経費	875,000	860,847	98.4%
合計		5,369,520	4,995,490	93.0%

補足説明	
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	あしかもメディア掲載 (キッズネイチャーフェス) https://ashikamo.media/kids-nature-festival/ (森のようちえん体験会) https://ashikamo.media/forest-kindergarten/ ろまんちっく村WEB掲載 https://www.romanticmura.com/event/detail.php?ym=2021-11&n=0011 セミナー「子ども支援団体からみる、自然体験活動への期待」フェイスブックページ https://www.facebook.com/events/4269772219781246/?context=%7B%22event_action_history%22%3A[%7B%22surface%22%3A%22page%22%7D]%7D
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	チラシ (キッズネイチャーフェス) http://go-and-joy.com/wp-content/uploads/kidsnaturefes.jpg (森のようちえん体験会) http://go-and-joy.com/wp-content/uploads/morinoouchien.jpg
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	秘密基地にステッカーを貼付しアピールした。
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置

XII. その他

自由記述
